

# icvss MAGAZINE

～November, 2018 Vol. 3～

## 関大から踏み出す

## 国際協力への第一歩



### 国際協力関係行事①

世界を舞台に活躍する専門家の  
活動経験を聞いてみよう！

### 国際協力セミナー

世界を舞台に活躍する専門家の方を講師  
としてお招きし豊富な活動経験をもとに  
講演をしていただきます。



### 国際協力関係行事②

国際協力ってそもそも何だろう？  
そんな疑問に答える入門講座です！

### 国際協力ガイダンス

国際協力に関する情報に触れる  
きっかけとなる  
入門的な講座として開催  
されています。

## 国際協力 関係行事

みなさんは、関西大学内で  
国際協力に関する講座を受講  
できることをご存じですか？

関大生の中には

「国際協力に興味はあるけど、自分にはど  
んな活動が向いているのか分からない！」  
という人もいるのでは？

そんなあなたのために、国際協力の仕組み  
や活動内容を学べる絶好の機会が、関西大  
学の中にもあるんです！

「もっと知りたい！」という人から「なん  
となく興味がある」という人まで、ぜひ気  
軽に参加してみてください。

編集:icvss

発行:関西大学国際部

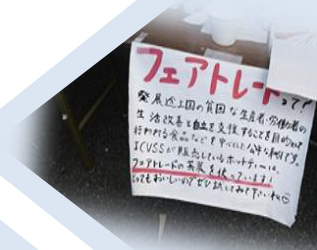
## icvss

イクビス:

International  
Cooperation

Volunteer Student

Staff



icvssは  
関西大学国際部に  
学部・学年を問わず  
国際協力・貢献に関心のある学生  
が集まり本学の学生に国際協力・貢献  
活動への関心を拡げるため広報活動  
や運営補助を行っている団体です

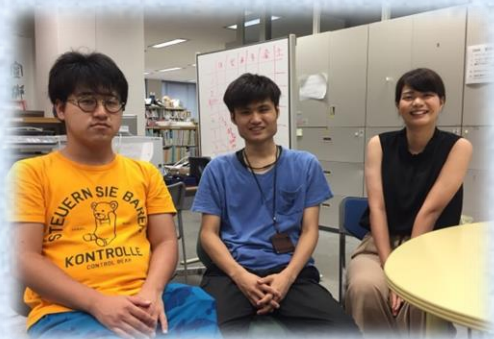
2019年4月～  
新スタッフ  
募集開始！





# INTERVIEW

総合情報学部四年次生の  
長谷川尚子さん、関西大学大学  
院・総合情報研究科の鳥井新  
太さん、出田貴大さん(国際協  
力グループTICKET)にお話しを  
お伺いしました。



**Q** 活動内容を教えてください。  
長谷川さん：フィリピンのレイテ島にある、タナワン第二セントラルスクールの先生に対して、ICT教育を広めるために、ICT教育の方法を教えたり提言したりしています。以前は、フィリピンのマロロス州のブラカンでICT教育を広める活動をしていました。  
\*ICT教育とは：インターネットやタブレット等の情報通信技術を教育で活用すること  
**Q** ICT教育を広める活動を行うようになったきっかけはありますか？  
長谷川さん：総合情報学部の久保田賢一先生がフィリピン人の教員たちと行っている現地でのICT教育がきっかけです。  
**フィリピンでの教育委員会は、生徒が主体的に学べるカリキュラムに変えようとすることを目標としており、そのために授業にICT教育を取り入れようとしています**が、慣れていない先生が多く、問題が多かったんです。そこで効果的なICTの使い方を教えることになりました。  
**Q** どうしてこのグループに参加しようと思ったのですか？  
長谷川さん：元々、**青年海外協力隊として活動したい**という願望があり、TICKETがJICAのボランティアに参加する活動を行うと聞いて、参加しました。(今はJICAに関する活動は行っていない)  
鳥井さん：元々は、「英語が喋れるようになりたい」や「机の上じゃできない学びがしたい」という理由でこのグループに参加しました。でも、続けていくうちに**現地の人のために支援をしたい**と考えるようになりました。  
そして、昨年は久保田先生に進められ、TICKETのリーダーとして、JICA

CAの活動などに参加しました。学部大学院で勉強する中で、**国際協力という分野に興味を持ち始めて、現地に役立つことを目標に活動してきました**。今は先輩に引き継ぐことが私の役目です。  
出田さん：元々教育にしか興味がありませんでした。**他の人へのいい意味での影響を与えたい**という理由で学校の先生を目指しましたが、異文化コミュニケーションの授業などを通して、**日本の子供だけじゃなく、他国の人にも影響を与えたい**と考えました。研究室のグループがフィリピンなどを中心に海外で活動を行っているのを知っており、もともと仲が良かった鳥井さんたちの活動を見学に行ってみたところ入ってしまっていました。何らかの形で協力しようかなと考えていたのに渡航もすることになりました。(笑)  
でも一番の理由は、「**違う国の人にも影響を与えられる先生**」になるためです。  
**Q** 活動に参加したことで得たもの、自分自身で変わったことなど教えてください。  
長谷川さん：現地に行く前と今で変わったことは、**向こうの環境でできることをやろうという意識が芽生えたこと**です。私がやりたい活動よりも、現地にあった活動や現地のニーズを実現させる活動を行うことの大切さを知りました。留学では学べないことが学べるのかなと思いました。  
鳥井さん：一言でいうと「**やりたいこと**」を見つけることができました。  
単純に楽しいことがしたいだけだった**が、大学教員になってフィリピンでのICT教育を活用した教育開発を行いたい**と考えるようになりました。  
とさらに、自ら指導して、講師の育成に

## フィリピンでの活動の様子



も携わりたいと思いました。国際協力に関する講師になるための経験を積むことができたと思います。  
出田さん：**Try & errorの大切さ**を学びました。今、現地の子供たちに見せる波動実験を準備しているのですが、実験を考える上でも教師としての経験は役に立ち、また良い刺激にもなると思います。  
**Q** 関西大学の学生に一言メッセージをお願いします。  
**A** 学生のうちにできること、今やりたいうことを精一杯頑張ってください！

TICKETとは何の略？

Technology and International Cooperation  
by Kansai University Educational Team

# 私が経験した「国際協力」のかたち

In ドイツ平和村



打合せの様子



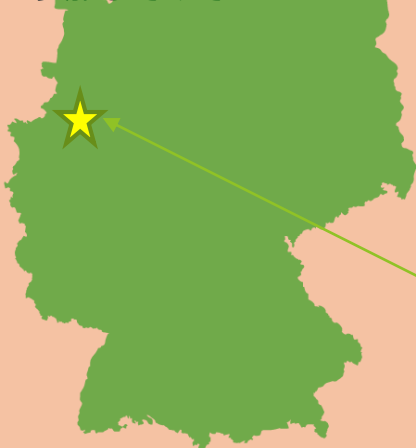
歯ブラシの寄付

生活インフラや医療設備が当たり前で整備されている日本で生まれ育った私には、戦争で負傷し母国で十分な治療を受けられない子供たちの姿は衝撃だった。その瞬間遠い国のお話には過ぎなかった紛争問題は現実として重くのしかかってきた。

ドイツ国際平和村では、第三次中東戦争の際、怪我を負い現地では十分な治療を受けられない子供をヨーロッパで治療する目的をはじめとして、現在ではヨーロッパの平和村で共同生活を営みつつ治療を行う活動の他、カンボジアやアフガニスタンでも平和村が設置され、紛争地での医療活動の促進を図る活動も行われている。

子供達のお世話をする住み込みのスタッフ達は、世界から集まったボランティアや職員であり、彼らと子供達は身に着けたドイツ語でコミュニケーションをとる。その中には日本から直接ボランティアに参加したり、ドイツの大学で学んだ日本人のボランティアの姿も。また寄付金も世界各国から送られている。私は寄付金の他に、使い捨て歯ブラシを寄付させていただいた。怪我や病気を抱える子供が多く、感染症などを防ぐ為にも衛生面で使い捨て歯ブラシは重用される。

強く印象に残っているのは、普段接する機会のない中東出身の子供達に触れたこと。彼らの話に衝撃を受けた一方、彼らも日本の子供と同じ様に家族を恋しく思ったり、友達と遊ぶことが好きなど、ごく普通の子供であるということを感じ、だからこそ彼らが普通の生活に戻る為に医療などの支援が必要なのだと強く感じた。単に、人々の役に立つ為ではなく、自身が国際社会の現状を知るための第一歩として、こういったボランティア活動へ参加してみてもいいだろうか。



(政策創造学部二年次生 西田佳奈

記事編集：文学部三年次生 船本愛理)

ドイツ平和村はココ！  
オーバーハウゼンという町にあります。





# HOUSE OF JOY

私達icvssは関西大学統一学園祭で模擬店などを出店した際の売上金をHouse of Joyというフィリピンの児童養護施設に毎年寄付しています。今回はそのHouse of Joyがどんな施設なのか取り上げていこうと思います。House of Joyはフィリピンのダバオオリエンタルにある日本人が運営している児童養護施設です。ここでは、親が居ない、虐待を受け苦しんでいる等、様々な事情がある子どもたちを保護し、18歳まで育てています。House of Joyはゲストハウスを運営しており、宿泊客は子どもたちと交流をしながら滞在を楽しむことができます。宿泊料は施設の運営金にあてられます。日本からダバオまでは約8時間で、関空からダバオまで往復4万円ほどで行くことができます。その為、毎年多くの方が訪れています。興味がある方は、House of Joyについて調べてみてはいかがでしょうか。



昨年の関西大学統一学園祭ではタピオカジュースを販売し、売上金を「House of Joy」に寄付しました。

「House of Joy」で暮らす子どもたちから写真が届きました！

寄付金と共にお渡ししたicvssからの寄せ書きを持って写真を撮ってくれています。今回の寄付金はHouse of Joyの運営資金として利用されます。こうして寄付金をしっかり届けることが出来たこと、そして施設の運営に少しでもお役に立てたことがとても嬉しいです！今後もicvssは自分たちにできる国際協力とは何かを考えながら、関西大学に国際協力を広める活動を行っていく予定です！

